

(様式1)

令和7年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立第四吾嬬小学校
校長名	清水 雅也

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
①各学年・全教科標準スコア50以上を目標としてきた。5年を除き目標を達成した。 ②正答率に関しても、5年生以外はいずれも「全国平均・区平均」を上回っている。	①5年生・標準スコアの前年度比較が全教科で下落した。 ・国語 -1.4 ・社会 -1.3 ・算数 -5.3 ・理科 -4.1 ②3年生の算数「知識・技能」は、区平均値を0.4ポイント下回った。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
①全カテゴリー（自己認識、社会性、学習環境、生活・学習習慣）のレーダーチャートに偏りが無い学年は、平均正答率も良好であることがわかる。	①「学級の絆、規律と思いやり」が低い児童は、正答率も低い傾向にある。 ②「自己肯定感、生活習慣、学習習慣・意欲」が低い児童は、正答率も低い傾向にある。特に、高学年ではこの傾向が顕著である。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
①安定した学級経営、計画的な家庭学習の奨励、振り返り学習の確実な実施により、全体的に良好な成績を修めている。 ②学力向上主任を中心に、学力の定着に組織的に取り組み、成果をあげた。 ③ふりかえり学習期間を中心に、「ふりかえりシート、学習問題データベース等」の教材を活用し、学習内容の定着が進んだ。	①学習・生活習慣の定着率が低い児童は、正答率も低い傾向にある。 ②5年生は、入学時からの継続課題である「生活・学習規律の徹底」が未だ図れていない。 ◇特別な配慮を要する複数の児童への学習・生活指導をより手厚くする必要がある。 ◇お互いの考えを尊重した話し合い活動が成立するよう指導を継続していく。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 基礎的・基本的な学習内容の定着

①学習の振りかえりを徹底する。

◇一単位時間で何をどのように学び、理解したのかを言語化する。これにより、自らの学びの過程や質、課題を明らかにし、次時以降の学習の充実を図る。

- ◇ドリル・練習問題の個々の取り組み状況を把握し、理解が不十分である事項（わからない問題）」のやり直しを徹底する。学習支援員によるサポートや、放課後の補習を有効活用する。
- ◇ふりかえりシート、学習問題データベース等を日常的・効果的に使用し、学習内容の定着を図る。特に「ふりかえり期間」には、児童の学習状況をより丁寧に確認する等、全校での取り組みを徹底する。

(2) 個に応じた指導の充実

①個別指導の充実を図る。

- ◇引き続き、算数を中心に学校支援指導員等を活用したDE層児童への個別支援・指導に力を入れる。
- ◇低学年～中学年に対して学習支援員のサポート等の機会を増やし、学習支援および学習習慣の定着・確立（ふりかえり、やりなおし等の習慣化）を図る。

②学習習慣の徹底

- ◇学習習慣が未定着な児童については、家庭学習の個別化等（習熟度別の内容）、より取り組みやすい環境を整え、学習意欲の向上につなげる。

(3) 考えをひろげる・深める

①話し合い活動の充実を図る。

- ◇「対話・少人数協議・全体協議（学び合い・教え合い）」を通して自分の考えをひろめ深める学習活動を、全ての教科において実施する。また、話し合い活動にはタブレット端末（ロイロノート）も活用する。
- ◇1単位時間および1単元の学習を通して変容した自らの姿（何がわかったか。新たな視点・考え方を得られたか。）を見つめる「学習のまとめ・ふりかえり」の時間を、十分に確保する。

②表現力を高める。

- ◇全ての教科・特別活動の場面において、書く活動・発表する活動を積極的に取り入れる。文字言語に加え、図・絵などを用いて、自分の考え・意見を効果的に表現することを習慣化する。

③探求的・体験的な地域学習を通して考えを深める。

- ◇「地域で学ぶ・地域から学ぶ」をテーマとした探求的・体験的な地域学習を通して、地域と自分との関わり方について考えをもつ。防災、新たな町づくり、大学と連携したキャリア教育等の取組から、地域社会の一員として「なにができるのか、なにをすべきなのか」について、各自の考えを交流し合い、自分の考えをひろげ、深めていく。

3 「令和8年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

★新2～5年生：全教科・全観点の平均正答率が、目標値を上回る。

★新6年生：標準スコアの前年度比較からの下落を抑える。

第1目標は「国語・社会」、第2目標は「全教科」とする。